



第 14 回 口頭弁論 1/30 (木)

当日は 46 人が傍聴。弁護士さんは 14 人。NHK が取材に来ていました。今回は 2 人の原告が証言しました。齋藤さん・石川弁護士チーム、菊地さん・工藤弁護士・林弁護士チームです。

お忙しい仕事の合間を縫って、証言したお二人。何度も練習を重ねて当日を迎え、とても堂々と、はっきりと意見を述べてくださいました。その声はとても力強く、「そうだ！ そのとおり」と、原告のひとりとして心の中でつぶやきました。

本人尋問はあと 1 回。ぜひ皆様裁判所に足をお運びください。傍聴席をいっぱいにして、多くの市民が注目していることを、裁判官のお三方に肌で感じてもらいましょう。

第 15 回口頭弁論

3/4 (火) 16:00～

事前集会 15:30～

次回原告尋問、(株)MD さん

口頭弁論 その前と、その時と、そのあと

梶原健嗣先生（愛国学園大学教授）が事前集会から応援に駆けつけてくださいました。梶原先生は、昨年 11 月の宇奈根排水樋管区域の現地見学会に参加した水資源・環境学会の研究者です。2015 年に被災した鬼怒川水害訴訟の支援をしている方です。事前集会＆報告集会で激励のあいさつをしてくださいました。

裁判官が 3 人とも女性というのは初めての経験。お二人の証言は、「家族が苦しかった様子」「お母さんとの被災後の暮らし」「葛藤の末の証言なのでは」など「絵」が浮かんだ。交流や裁判を通して、被災者が孤立しないでつながることがとても大切。点と点がつながり線になり、やがて面になる、そのような行動になるように、共にがんばりましょう。

齋藤さんは「この街に住み 50 年、水害は初めて。あっという間に浸水して、畳が浮き上がってしまうほどだった。片付けに 1 週間有休を使い、ひとりで廃棄処分した。同居の母は気管支炎で入院。預貯金はほとんど災害でなくなり、ローンも返せない。単刀直入に言います。これは人災です」と証言。担当の石川弁護士より「忙しい方ですが、本人に直接証言して頂く必要がありました。原告の皆さん、陳述で書いたことは裁判官に伝わっています。引き続き頑張りましょう」

菊地さんは「夕方 5、6 時頃家の前の道路に茶色い水が。5 日間会社を休み、所有する物件の片付けをした。泥と汚水の混合の汚れはやっかいで、時間を要した。職員の命に関わるので水門に行かせない判断だと思ったが、町会や自治体の説明でちょっとちがうんじゃないか？と思った」と。工藤弁護士より「20 分の時間制限がある中で話して頂いたが、マニュアルで閉めないという言い訳はダメだ」という訴えは裁判官に響いたのではないかと思います」



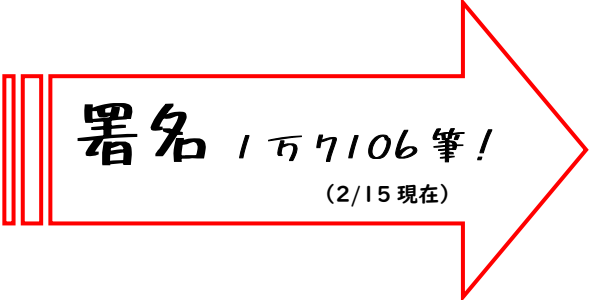
< 今後の予定 >

5/8(火) 第 16 回口頭弁論

14:30～ 事前集会

15:00～ 口頭弁論

裏面も
ご覧ください



署名 1万7106筆！

(2/15 現在)

すごい！ たくさん集まってきました。
みなさま 引き続きよろしくお願いします

前回の口頭弁論前には、新丸子駅で署名を集めました。改札を出て右側、歩道が広がっている場所があります。4人で小一時間。何人もの人が足を止めて話を聞いてくれ、対話になりました。この時間だけで、21筆も署名があつまりました。口頭弁論前や、事務局会議前など、少し時間があり、複数人集まる条件があったら、短時間でも街頭での署名行動をやってみようと話し合っています。

この間、弁護士さんのアドバイスを頼りに、事務局メンバーで労働組合や医療関係のグループなどたくさんの団体を訪問して署名の協力を呼びかけてきました。大人数、少人数、様々な組織に働きかけ、その数は100団体以上です。また、仕事で会合があったときには必ず署名用紙を持参して、声かけしている原告の方もいらっしゃいます。

川崎市内の団体を尋ねることが多いのですが、繰り返し声をかけ続けたので顔見知りになった方もいて、傍聴にまで足を運んでくださいます。人と人の出会いを大切に、市内の問題にもアンテナを高くしたいものです。

また、神奈川県全域に組合員さんがいる神奈川土建一般労働組合さんにも署名のお話をしました。団長から、「家づくりという皆さんの仕事がちづくりつながっていると思います。皆さんが大切にしている安全な住まいづくり・まちづくりが、川崎市の仕事のさぼりによって壊されてしまったのが今回の水害です。ぜひとも我が事と受け止めて、全県で署名を取り組んでほしい」とお願いしました。結果、川崎市以外の全ての自治体にお住まいの組合員さんが取り組んでくださることになりました。そして、9000筆を超える、たくさんの署名を届けてくださいました。

ひとり2人と声をかけ、署名を積み上げていきましょう。ホームページを紹介することで、オンライン署名にも取り組んでもらえます。この数は、私たちの裁判に注目している市民の数として、裁判官にインパクトを与えます。引き続き、がんばりましょう！